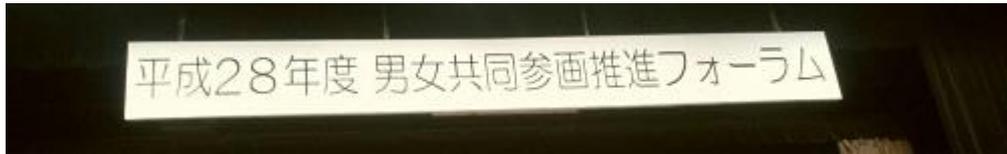


報告書

《平成28年度ヌエックフォーラム》に参加して



8月26日、男女共同参画推進フォーラムが「つなぐ、あらたな明日へ…一人ひとりが活躍できる社会を創る」をテーマに独立行政法人国立女性教育会館(ヌエック)で開催されました。

特別講演として、「均等法から30年、あらたな明日へ～女性の活躍について考える～」講師・赤松良子氏(公益財団法人日本ユニセフ協会会長)が話されました。

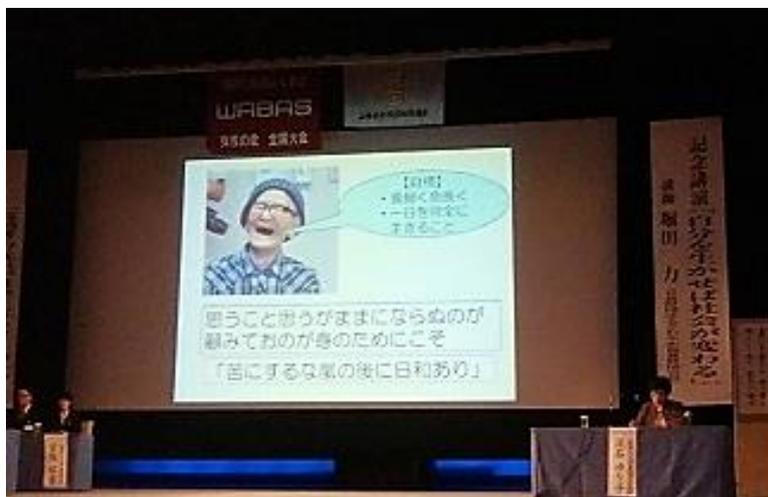
戦後マッカーサーは日本を「戦争をしない国、女性の差別撤廃、女性に参政権」になるよう伝えた事を法律が決まることで大きな力になり、少しずつ変わってきてはいるが、女性の差別撤廃は遅延として進まない。「女性自身が変わる事が、いま一番必要なことだ」と赤松良子氏に言って欲しかった。物足りない内容だった。



《第35回高齢社会をよくする女性の会 全国大会 in 山梨》に参加して

8月27日甲府富士屋ホテルにて、「高齢者の元気が社会を変える」をメインテーマに全国大会が開催されました。記念講演で、堀田力氏が「自分を生かせば社会が変わる」と題して話されました。

第1セッション 「幸せな老い」～認知症になっても最期まで、安心して暮らすために～



最期まで自分らしく、安心して暮らし続けることが、私たち一人ひとりの願いです。その実現には若いうちから「老年期」や自身の加齢変化(からだ・心・社会的側面)を理解し、「老い」とうまく付き合いながら生活することが大切です。印象に残った話でした。

第2セッション

めげない女の人生100年プラン～差別にめげず、介護に負けず、病に敗れず、貧乏をぶっ飛ばし、女老い路を生きる-そんな女に私はなりたい～

印象に残った言葉・・・
女が元気でなければ、世の中は真っ暗。女が笑えば世界が笑う。そのため
の人生100年プラン！
！



第3セッション

「女がつなぐ人生100年コミュニティ」～支援の受け手から支え手に～



7人のゲストがそれぞれの活動を通して話されました。その結論「地域の絆を創り上げ、相互に助け合う・お互いさまコミュニティ・を創り上げることが、いま必要とされる」が印象に残りました。

大会フィナーレ “めげない女の人生100年、女の老い路を地域で新たに生きる”

ゲストたちがそれぞれの主張を掲げ、次の開催地北見市にバトンが渡されました。「高齢者が頑張る 輝く街づくり」をメインテーマに開催されます。交流会では懐かしい顔がたくさん見受けられました。



文責 代表 田中隆子